国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善　研究発表

愛知県立小牧南高等学校
国語科　青ちづる

AL型の授業に求められる要素
―自ら課題を見つける力をつけるために―

・作品に対する興味が深まるような授業
・他の生徒の活動から刺激を受けられる授業
・「おもしろそうだ」と感じさせるパフォーマンス課題
・グループの一員として役に立ちたいという気持ちを喚起するパフォーマンス課題
・「自ら課題を見つけたこと」に対する適正な評価
・自ら課題を見つけることで、学びが深まるという実感をもたせること

実践例①

学年：1年生

科目：国語総合（現代文分野）

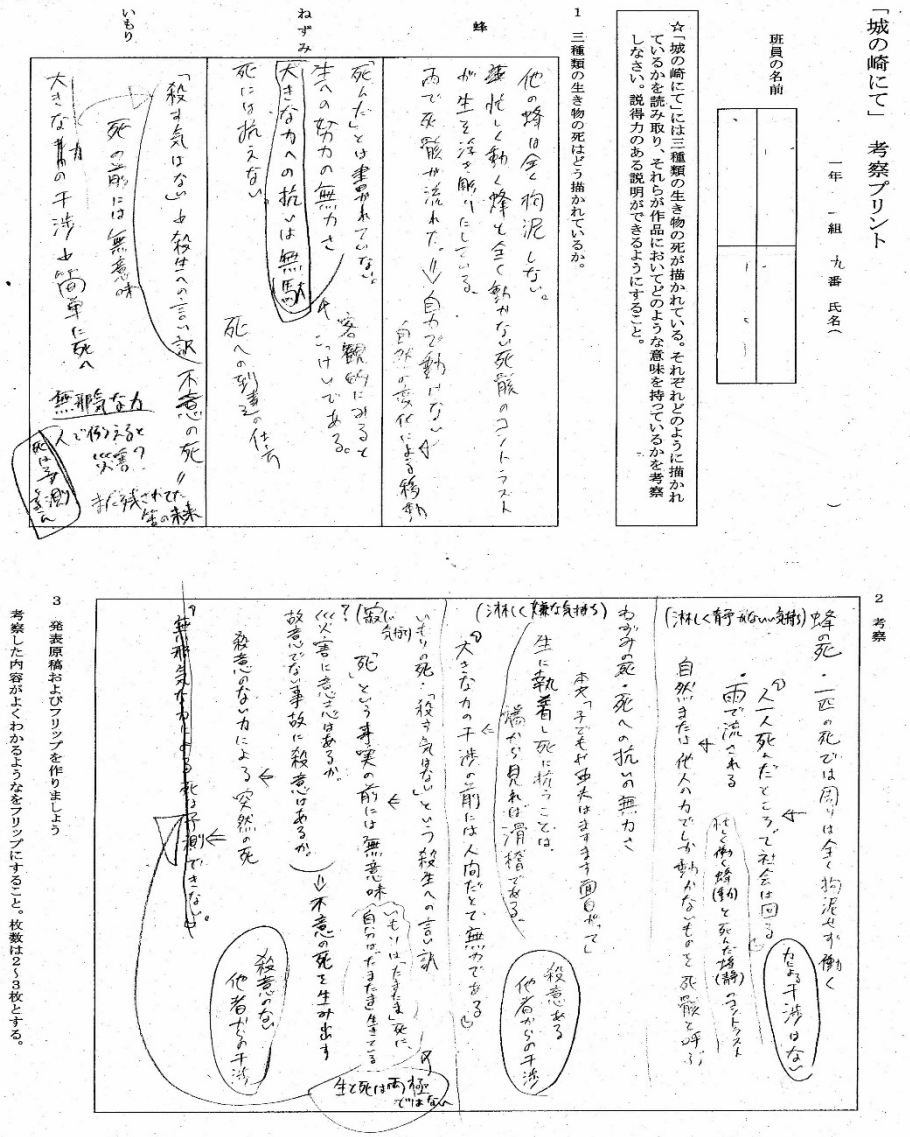
活動：『城の崎にて』三種の生き物の死が、
作品の中でもつ意味について考察する

目標：文学研究のおもしろさを味わわせ、今後
の学びにつなげる

グループで考察する様子

発表の様子

生徒のワークシート



「城の崎にて」　考察プリント

一年　一組　九番　氏名（　　）

班員の名前

☆「城の崎にて」には三種類の生き物の死が描かれている。それぞれどのように描かれているかを読み取り、それらが作品においてどのような意味を持っているかを考察しなさい。説得力のある説明ができるようにすること。

1　三種類の生き物の死はどう描かれているか。

蜂

ねずみ

いもり

2　考察

3　発表原稿およびフリップを作りましょう

考察した内容がよくわかるようなフリップにすること。枚数は2～3枚とする。

4　発表の役割分担をして、練習しましょう

振り返り

- １年生ということもあり、深く考察するところまではいかなかった。今後も考察・研究のおもしろさを教えていきたい。

- 活発に議論するグループ、一人が引っ張っていくグループ、静かな意見交換で終わったグループなどがあった。過去の例を見ても、３年生の方が活発にグループ活動ができる。人間関係が構築されているからではないか。

- ルーブリックを用いた評価では、ほとんどの班が活発な意見交換をしていた。評価シートをグループで一枚にしたのがよかった。

実践例②

学年：3年生

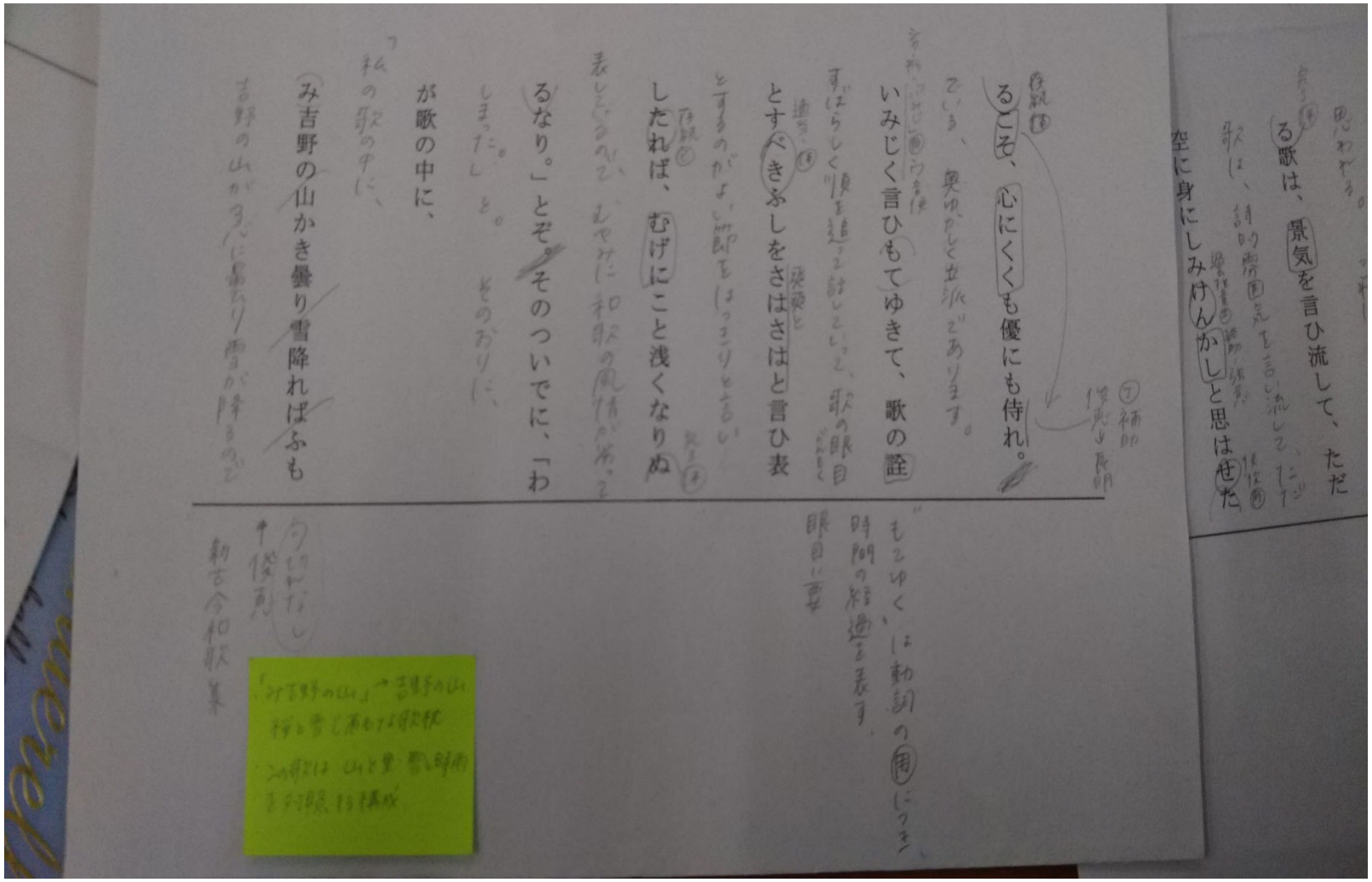
科目：古典B　さまざまな単元において

活動：自分たちで進める読解の授業

目標：自分たちで読解の授業を進めることで、
作品に深く関わるとともに、自ら課題を
見つける機会とする

授業の冒頭で内容について相談する生徒たち

授業が始まる前の生徒のノート



振り返り

- ペアの生徒に迷惑をかけたくないという思いから、何も言わなくても全員が予習をして授業に臨むようになった。
- 解説をする生徒は必ず発問をするというルールにしてからは、生徒同士の応答が、より活発になった。
- 作品や場面に関する雑学を披露するなど、一歩深めて予習してこようとする態度が見られた。
- 前提として教員による明るい雰囲気作りが必要。何を言ってもいいし、間違ってもいい場にするとよい。

実践例③

学年：3年生

科目：古典B

活動：『無名抄』「俊成自讃歌のこと」の学習のまとめとして、心情を表す語を用いずに心情を伝える短歌を作る

目標：心情を表す語を用いずに心情を伝える短歌を創作することで、ものの見方・感じ方を豊かにする

創作した短歌を発表する生徒たち

振り返り

- ２年次から継続してALに取り組んできた生徒たちなので、大勢に見られている中でも堂々と発表できた。
- 生徒たちの選んだ優秀短歌と、教師が選んだ優秀短歌が異なり、その点についての振り返りを行った。自分たちが創作した短歌についての振り返りであるので、真剣に考え、意見を述べる姿が見られた。
- きちんと機能するルーブリックを作る難しさを実感した。
- ALとともにクラスが成長したことを実感できる取り組みであった。

その他の実践例

現代文分野

・「水の東西」→二項対立を意識したスピーチに挑戦
・「羅生門」→「今昔物語集」との比較に基づいた主題について
　　の考察
・「山月記」→李徴が変身するものが虎である必然性につい
　　ての考察
・短歌道場
・「こころ」→Kの自殺の原因についての考察
・「赤い繭」→主題を探るペアワーク
・新聞記事を用いたペア・リテリング
・評論文の内容について自分の言葉で説明する習慣づけ
・記述演習では解答を回覧し、自分たちでポイントを確認
　する習慣づけ　　など

その他の実践例

古典分野

・グループで文法事項の習得に挑戦「目指せ全員合格」

・『大鏡』「南院の競射」の脚本を作り演じる取り組み

・漢文早読みに挑戦

・『史記』「鴻門の会」について、さまざま補助資料を読み、脚本化して演じる取り組み

・初見の古典について、自分の言葉で内容を説明させる習慣づけ　　など

まとめ

・ALは継続しないと生徒が育たない。うまくいかない時もあるが、目の前の生徒を見て、日々改善していくとよい。
（例）グループの人数を変える、ワークシートを変える、ルーブリックを変える、評価のタイミングを変える
・その活動により、どのような力がつくのかをしっかり知らせる。単元の目標の他に、活動一つ一つの意義を理解させるとよい。
・パフォーマンス課題は少し難しい方がよい。自分で課題を見つけるきっかけになりやすい。
・教師の中でAL仲間を作れるとよい。気軽に授業を見せ合ったり、ワークシートを共有したりできるし、アイディアの数も増える。ベテラン教員の姿勢が重要ではないか。
・自分で課題を見つける前提として興味・関心を高めるためにALは有効。

ご清聴ありがとうございました